

# 日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座 商会 No.15 【退職給付引当金】

収録日：平成 25 年 9 月 8 日

## 【出題実績】

日商簿記 1 級過去問 下記参照  
全経簿記上級過去問 下記参照

	検定簿記講義(商簿)	サク	スッキリ	教科書
ページ数	12	26	24	
退職給付債務の計算	×	◎	◎	
退職給付債務の構成要素	×	◎	◎	
年金資産の構成要素	×	◎	◎	
退職金の支給	×	◎	◎	
差異の処理	◎	◎	◎	

◎説明あり、例題あり ○説明あり、例題弱い、△説明弱い、例題あり、×説明弱い、例題弱い  
（「弱い」は「ない」を含みます）

■退職給付会計、過去問チェック  
簡単な問題ばかりです。

日商

回	資料
116	III-3
119	II-4
122	III-5
123	III-4
125	II-6
129	II-7

全経

回	資料
158	3-⑦
164	3-⑥
167	3-⑥
	I

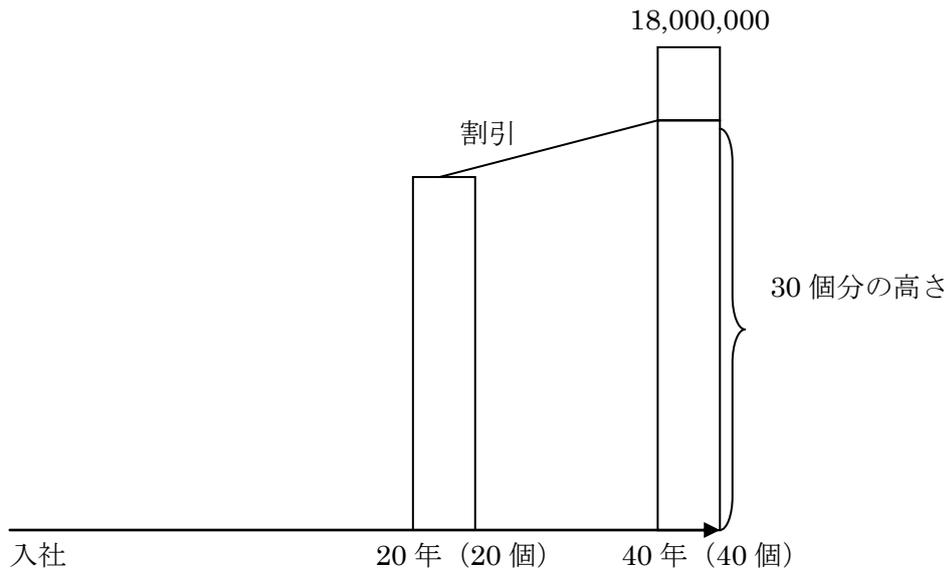
但し、退職給付に関する会計基準の変更を受けて、注目度が高まっているので、後半で説明する差異の処理に関しては注目すべき必要があります。

## 退職給付債務の計算

以下の資料にもとづいて、当期首(平成×25年)の従業員 A に対する退職給付債務を計算しなさい。

●資料●

従業員 A は平成×5年入社、退職は平成×45年。(退職給付見込額は1,800万円)  
割引率は3%である。



$$1,800 \text{ 万円} \div 40 \text{ (個)} = 450,000 \text{ 円 (まず単価算出)}$$

$$20 \text{ 年分の勤続価値 } 450,000 \times 20 \text{ (個)} = 9,000,000$$

その現在価値は

$$9,000,000 \div (1.03)^{20} = 498.3 \text{ 万円}$$

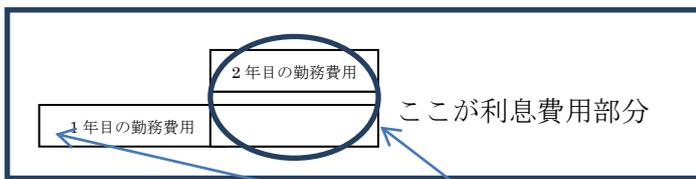
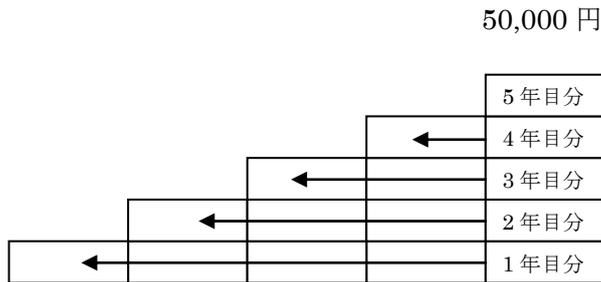
**SHARP**  $900 \div 1.03 = \text{-----}$

**CASIO**  $1.03 \div \div \text{-----} = \text{M+}$

$$9,000,000 \times \text{MR}$$

**補足**

今年入社したAさんの、5年後の退職金支給予定額は50,000円  
尚、金利は5%である



1年目の期末時点の退職金  
 $10,000 \text{円} \div 1.05 \div 1.05 \div 1.05 \div 1.05 = 8,227$

2年目の期末時点の退職金  
 $20,000 \text{円} \div 1.05 \div 1.05 \div 1.05 = 17,277$

この差額がAさんが2年目に働いた結果、増加した退職金の現在価値  
 $17,277 - 8,227 = 9,050 \text{円}$  (要は引当金が9,050円増えたという事)

この金額は  
 2年目単独の勤務分の現在価値  $10,000 \div 1.05 \div 1.05 \div 1.05 = 8,638 \text{円}$ に(勤務費用)  
 1年目の8,227円に金利を加えた分、 $8,227 \times 0.05 = 411$  (利息費用)  
 を加算した金額と同じ  $8,638 + 411 = 9,049$  (退職給付費用)

ほぼ一致

日商 110 回会計学の例題

従業員Aの入社から退職までの期間を5年、退職時の退職金の見込み額を6,500万円とした場合、入社2年目の勤務費用と利息費用はいくらか。なお、割引率は5%とする。(端数四捨五入)

<解答>

勤務費用： $(6,500 \div 5) = 1,300$   
 $1,300 \div (1.05)^2 = 1,123$ (万円)

利息費用： $(6,500 \div 5) = 1,300$   
 $1,300 \div (1.05)^2 \times 0.05 = 53$ (万円)

下のBOXを覚えて対応しましょう。

次の資料 A にもとづいて、(1)期首退職給付引当金、(2)利息費用、(3)期待運用収益、(4)当期の退職給付費用、(5)期末退職給付引当金を示しなさい。また、資料 B に示す(6)~(9)の内容を仕訳しなさい（端数は四捨五入）

●資料 A●

期首退職給付債務	407,434 円
期首年金資産	120,000 円
当期の勤務費用	18,432 円
利息費用の利率	5%
期待運用収益率	4%

●資料 B●

- (6)退職給付費用の見積りの仕訳。  
 (7)年金基金に掛け金 4,000 円を現金で支払った。  
 (8)退職者に退職一時金 12,000 円を現金で支給した。  
 (9)年金基金から退職者に退職年金 8,000 円が現金で支払われた。

(1)期首退職給付引当金：	<u>287,434</u> 円	(2)利息費用：	<u>20,372</u> 円
(3)期待運用収益：	<u>4,800</u> 円	(4)当期の退職給付費用：	<u>34,004</u> 円
(5)期末退職給付引当金：	<u>321,483</u> 円		

(6) 勤務費用	18,432	/	退職給付債務	18,432
(退職給付費用	18,432	/	退職給付引当金	18,432)
利息費用	20,372	/	退職給付債務	20,372
(退職給付費用	20,372	/	退職給付引当金	20,372)
年金資産	4,800	/	期待運用収益	4,800
(退職給付引当金	4,800	/	退職給付費用	4,800)
(7) 年金資産	4,000	/	現金	4,000
(退職給付引当金	4,000	/	現金	4,000)
(8) 退職給付債務	12,000	/	現金	12,000
(退職給付引当金	12,000	/	現金	12,000)
(9) 退職給付債務	8,000	/	年金資産	8,000
(退職給付引当金	8,000	/	退職給付引当金	8,000)

=仕訳なし

年金資産

退職給付債務

--	--

ここからは、ダウンロード講座での解説です。  
(2013年5月に作成した資料と動画で説明します)  
(動画は急にはじまりますがご了承をお願いします)

では、差異を含んだ少々難問にチャレンジしてみましよう。  
この問題ができれば、商業簿記レベルは全く問題ないと思われます。

<例題>

年金資産と退職給付債務に関して次のような情報が得られた。当期の退職給付に関する仕訳を行いなさい。

<当期首の情報>

退職給付債務 15,000 円、年金資産 10,000 円  
勤務費用 1,100 円、利息費用 400 円、期待運用収益 200 円

<期中処理>

年金資産への拠出額 500 円、年金資産からの年金支払額 1,000 円

退職一時金の支払額 500 円

<当期末の情報>

退職給付債務 16,000 円、年金資産 9,700 円

差異が生じている場合は、当期より 10 年間で償却する

期首の段階では、退職給付引当金は  $15,000 - 10,000 = 5,000$  円ですね

<考え方>

明細科目で仕訳をしてみましょう

- ①勤務費用（退職給付費用）1,100／退職給付債務（退職給付引当金）1,100
- ②利息費用（退職給付費用）400／退職給付債務（退職給付引当金）400
- ③年金資産（退職給付引当金）200／期待運用収益（退職給付費用）200
- ④年金資産（退職給付引当金）500／現金 500
- ⑤退職給付債務（退職給付引当金）1,000／年金資産（退職給付引当金）1,000
- ⑥退職給付債務（退職給付引当金）500／現金 500

期末の実際額は退職給付債務が 16,000 円なので、過去勤務債務（退職給付額の見積額と実際額の差異）が 1,000 円（不利差異＝借方差異）生じています。これを仕訳にすると

- ⑦未認識過去勤務債務 1,000（退職給付引当金）／退職給付債務（退職給付引当金）1,000

この仕訳を行った状態をTフォームに転記します

年金資産		退職給付債務	
期首	年金支払	年金支払	期首
10,000	1,000	1,000	15,000
期待運用収益	}	退職一時金	勤務費用
200		500	1,100
抛出		}	利息費用
500	15,000		400
	9,700	16,000	差異 1,000
		実際	
		16,000	

未認識過去勤務債務（B/S 項目＝退職給付引当金を構成）

発生	償却
1,000	

未認識過去勤務債務の償却を行います。問題文の指示より 10 年での償却をします

- ⑧費用認識（退職給付費用）100／未認識過去勤務債務（退職給付引当金）100

この結果Tフォームは下記のように変化します

年金資産		退職給付債務	
期首	年金支払	年金支払	期首
10,000	1,000	1,000	15,000
期待運用収益	}	退職一時金	勤務費用
200		500	1,100
拠出		}	利息費用
500	9,700		
		実際 16,000	
			差異 900

#### 未認識過去勤務債務

発生	償却
1,000	100
	900

この結果で当期の退職給付費用と退職給付引当金を計算してみましょう

$$\boxed{\text{退職給付費用}} = \textcircled{1}1,100 + \textcircled{2}400 - \textcircled{3}200 + \textcircled{7}100 = 1,400$$

$$\boxed{\text{退職給付引当金}} = \text{退職給付債務 } 16,000 \text{ 円} - \text{年金資産 } 9,700 \text{ 円} - \text{差異 } 900 = 5,400 \cdot \cdot \textcircled{1}$$

差異を加味した上記退職給付引当金をBOX確認しましょう

退職給付引当金 BOX	
年金 9,700	退職給付債務 16,000
差異 900	
5,400	

確認のために退職給付引当金を期首から追いかけてみましょう (P2の仕訳を参照)

$$\text{期首 (5,000)} + 1,100 + 400 - 200 - 500 - 500 + 100 = 5,400$$

では、最後に日商簿記129回(商業簿記II-7)と全経簿記上級167回(商業簿記3-6)を、あわせて5~10分で実施して下さい